

目的 アメリカ・イギリス・フランス・デンマーク・イタリア・タイ・韓国の7カ国の老人と比較したとき、日本老人のわづ属性・生活行動・生活意識上の特性はどのようなものかを析出する。

方法 総務府老人対策室が1981年と86年に実施した「老人の生活と意識に関する国際比較調査」のうち、両国に共通する項目の結果を中心に分析する。

結果 日本老人のマイナス側面としては、近所の人との話し合いが少なく、親友がいない、異性の友人がいない者が多く、社交性は最低である。地域活動、グループ活動も低調で、個人の趣味の種類も少ない(3.3・米は8.2)。さらに、家族外サービスの受け方も2%で最低であった。

反対にプラスの側面としては、有配偶者の割合が高く、子が多く、子夫婦と同居する者の割合も高いので、独り暮らしが少ない。この面での家族性は高いといえる。さらに、仕事がある、暮らしに困らない、悩み事がないとする老人の割合も高く、幸福感が高いことは第1位である。そのほか、仕事を続けたい理由、生涯で楽しかった時期も他国にない特色を示した。